

令和5年度
フィールド自治体型政策研究会
活動報告書

公益財団法人ふくしま自治研修センター
政策支援部
令和6年2月

目 次

1. フィールド自治体型政策研究会について……………	1
2. 研究会の活動記録……………	2
3. 研究会名簿……………	7
4. 研究員インタビュー……………	8
5. 事業提案 ……………	12

1. フィールド自治体型政策研究会について

(1) フィールド自治体型政策研究会とは

ふくしま自治研修センターでは、県内自治体等職員の政策形成能力向上に寄与することを目的に、特定の地域課題をテーマとして取り上げ、自治体等職員が課題に関する知識・理解を深め、解決に向けた政策を提言する「政策研究会」を実施しています。

フィールド自治体型政策研究会は、研究対象とする自治体が現実に抱える課題に取り組み、事業化を見据えた実践的な政策研究を行うもので、令和5年度は玉川村を調査対象とし、活動を行いました。

(2) 玉川村について

福島県の県中地方南部に位置し、福島空港やあぶくま高原道路が整備され、交通の利便性に優れた地域です。

村では、平成2年3月に閉校した旧須釜中学校を活用した「すがまプラザ交流センター」を複合型拠点施設とし、オフィススペースやコワーキングスペース等を備え、「新たな人の流れ」の創出に取り組んでいます。

また、観光交流施設「森の駅 yodge (ヨッジ)」を中心とした体験型の観光を推進しているほか、「日本一自転車が好きな村」を目指して、サイクルビレッジたまかわ事業等を通じスポーツに親しめる村づくりを推進しています。

(出典：福島県「福島県市町村要覧 2023」)

(3) 令和5年度研究テーマ

「交流人口拡大からはじめよう！観光資源を生かした移住促進政策について考える」

近年、多くの自治体が抱える共通の課題として人口減少が挙げられます。解決策の一つである移住受け入れを促進していくためには、その前段階である交流人口（新規の旅行者）の拡大から取り組むことが有効ではないかと考え、テーマとしました。

2. 研究会の活動記録

回	月 日	場 所	内 容
1	5 月 31 日	すがまプラザ 交流センター	キックオフ ○講話 「玉川村を取り巻く現状と課題」 玉川村長 須釜 泰一 氏 ○講演 「観光資源を生かした地域ブランディングについて」 福島県立テクノアカデミー会津 教務主任 小泉 大輔 氏 現状説明 「玉川村の観光促進に向けた取組みについて」 玉川村企画政策課職員 現地視察 ○すがまプラザ交流センター ○森の駅 yodge (ヨッジ) ○スキルパークたまかわ ○アーバンスポーツたまかわ ○乙字ヶ滝
2	6 月 20 日	ふくしま自治 研修センター	グループワーク
3	7 月 11 日	ふくしま自治 研修センター	グループワーク
4	8 月 7 日	玉川村内	フィールドワーク ○玉川村観光物産協会 ○玉川村商工会 ○道の駅たまかわ ○地域おこし協力隊 ○サイクルヴィレッジたまかわ ○泉郷駅前、遊水地予定地
	8 日 8 日	すがまプラザ 交流センター	グループワーク
5	9 月 14 日	ふくしま自治 研修センター	グループワーク

回	月 日	場 所	内 容
6	9 月 28 日	オンライン	グループワーク
7	10 月 23 日	ふくしま自治 研修センター	中間発表
8	10 月 31 日	ふくしま自治 研修センター	グループワーク
9	11 月 7 日	オンライン	グループワーク
10	11 月 16 日	玉川村就業改 善センター	グループワーク
11	12 月 1 日	ふくしま自治 研修センター	グループワーク
12	12 月 11 日	玉川村就業改 善センター	発表練習
13	12 月 18 日	玉川村就業改 善センター	成果報告会 ○研究員による成果報告 ○質疑応答 ○講師による講評 北海道大学 観光学高等研究センター (※) 准教授 小泉 大輔 氏 ○村長へ提案書の提出

(※) 小泉氏は、令和5年9月まで福島県立テクノアカデミー会津に勤務し、同年10月から北海道大学観光学高等研究センターに勤務。

【キックオフ】

研究会のキックオフにあたり、フィールド自治体である玉川村の現状と課題を学ぶため、「玉川村を取り巻く現状と課題」と題して村長からご講話いただきました。

続いて、講師の小泉氏から「観光資源を生かした地域ブランディングについて」と題してご講演いただきました。



全体風景



村長講話



講師講演

【現地視察】

キックオフの後、玉川村企画政策課より「玉川村の観光促進に向けた取組みについて」の説明を受け、村職員の案内により村内を視察しました。



すがまプラザ交流センター



森の駅ヨッジ



スキルパークたまかわ



アーバンスポーツたまかわ



乙字ヶ滝

【グループワーク】

研究員がふくしま自治研修センターや玉川村に集まり、村の抱える課題やその解決に向けた政策案について議論を重ねました。オンラインでも実施しました。



【フィールドワーク】

研究員が玉川村を訪れ、関係者へのインタビューや現場の視察を行い、政策案の参考とするための情報収集を行いました。



玉川村観光物産協会



玉川村商工会



道の駅たまかわ



地域おこし協力隊



サイクルヴィレッジたまかわ



泉郷駅前



駅前工場跡地



遊水地予定地

【成果報告会】

玉川村長をはじめ、村職員、関係者を前に、研究員から研究成果の発表を行いました。発表後、質疑応答を経て、講師の小泉氏から講評をいただきました。

最後に、研究会リーダーの芳賀さん（平田村）から村長へ事業提案書を提出し、村長から提案を受けてのご感想をいただきました。



研究員による成果発表



研究員による成果発表

質疑応答



講師の講評

研究員から村長へ提案書提出

村長から提案を受けてのコメント

3. 研究会名簿

研究員

所 属	職 名	氏 名
福島県農林水産部農業振興課	副主査	木谷 淳一
福島県県中地方振興局	主 事	志波 真英
福島県立福島明成高等学校	主 事	三浦 向日葵
矢吹町商工観光課	係 長	星 雄太
玉川村総務課	主 査	小林 安貴
平田村企画商工課	主任主査	芳賀 正和

講 師

所 属	職 名	氏 名
北海道大学 観光学高等研究センター	准教授	小泉 大輔



4. 研究員インタビュー



福島県農林水産部農業振興課 副主査 木谷 淳一

政策研究会に参加し、行政マンとしての新たな知識を得ると同時に政策の意思決定や問題解決のスキル等について学ぶなど貴重な経験を積むことができました。

今年度は玉川村を対象フィールドに「観光資源を生かした移住促進政策について考える」というテーマのもと、玉川村が抱える課題解決に向けた政策提言を行うまでの約7カ月間、他自治体を含む研究生とのグループワークやディスカッション、現地でのフィールドワークを通じて、玉川村の課題を“自分ごと”として捉え、異なる視点から課題に取り組む重要性を理解し、各人のこれまでの経験や知識を踏まえ、意見交換やアイデアを出し合いました。協力と協調が不可欠であることや、政策を立案していくうえで、多面的かつ客観的な視点で現状を捉え政策に反映させていくことの重要性について再認識しました。また、戦略の構築においてはデータとエビデンスだけではない、‘住民の生の声’を反映した地域に寄り添った施策を実行することが政策形成の本質であると改めて気づかされました。

これらの学びを実践に活かし、効果的な政策の立案と実現に貢献できるよう今後も取り組んでいきたいと思えます。

最後に、限られた時間内で提言としてまとめられたのは小泉准教授、研究生の皆さまのみならず、今回の研修に携わった玉川村・ヒアリングでお世話になった皆さま、ふくしま自治研修センター事務局の皆さまにご協力いただいた賜物です。皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。



福島県県中地方振興局 主事 志波 真英

今回「令和5年度フィールド自治体政策研究会」に参加し、通常の業務ではできない貴重な経験をすることができました。

研究会では、複数の事業をどのようにまとめ、プレゼンするかといった合意形成の部分で苦勞をしました。しかし、時間と労力をかけて、様々な立場のメンバーと協同で1つの事業を作っていくという経験はなかなか得られるものではなく、政策の形成に限らない今後の業務にとっても役立つものとなりました。

また、フィールドワークでは、玉川村で活躍されている様々な方に実際にお話を伺い、ネットでの検索では手に入らないようなことも知ることで、政策の立案の参考とすることができました。政策の立案にあたっては、EBPMの考え方が重要であることは当然ですが、データだけを重視するのではなく現場の声も大切に、その両方で測ることが必要であると感じました。

これからは、玉川村の今後の観光や移住・定住の推進に関心を寄せながら、今回の研究会で学んだ合意形成についての考え方を、政策の立案にとどまらず様々な場面で活かしていくとともに、今回の研究会で出会ったような、地域で頑張る方々の力になれるような職員になりたいと思えます。



福島県立福島明成高等学校 主事 三浦 向日葵

今回フィールド自治体型政策研究会に参加し、これまでの業務では得られなかった経験をたくさんさせていただきました。政策形成や企画については何も分からないところからのスタートでしたが、グループワークなどを通して政策形成の過程を実践的に知ることができました。特に、自治体の抱える現状・課題に対してどのような政策を実行していくのかを考える上で、現状や課題について客観的なデータも踏まえて分析していくことで、政策の有効性を高めることができると分かり、とても勉強になりました。

具体的な提案内容を考える場面では、他の自治体にはない斬新なアイデアを出すことと、現実的にそれが実行可能であるかのバランスを考慮しながら政策をつくりあげていくことの難しさを感じました。しかし、グループのメンバーの皆さんに様々な意見をいただきながら、提案内容を固めていくことができました。

研究会全体を通して、フィールドワークや事業提案書の作成、玉川村の方々へ向けてのプレゼンなど、参加しなければできなかった経験が多くありました。これらの貴重な経験をこれからも生かしていきたいと思えます。



矢吹町商工観光課 係長 星 雄太

現在、観光や移住・定住に関わる業務に携わっていることから、今回の政策研究会に参加しました。矢吹町は、フィールド自治体である玉川村に隣接しており、遊水地の整備や人口減少、高齢化、産業の衰退など、共通の課題を抱えています。今回の研究テーマである「交流人口拡大からはじめよう！観光資源を生かした移住促進施策について考える」について、職場や立場の異なる自治体職員で政策提案を検討することで、玉川村や矢吹町を含めた地域全体の課題解決と地域の活性化に繋がる糸口になるのではないかと考えました。

グループ内で検討を進めるなかで、様々な意見を出し合い、議論し、何度も事業提案書を作り直しました。採用された意見があり、ボツになった意見もありますが、その都度、各々が自分たちの自治体を考えるように真剣に向き合い、調和を図りながら対話を続けた結果として、最終的に素晴らしい政策提案ができたと感じています。今回の研究会をとおして、1つの目的に向かい互いに協力し合い、繋がりを強めることの重要性を改めて認識できました。今回参加したメンバーの皆さん、本当にありがとうございました。



玉川村総務課 主査 小林 安貴

今回の政策研究会は出身地かつ勤務自治体の村である玉川村が対象であり、改めて現状や課題について目を向ける機会となりました。日常生活や業務では村の中から見える現状や課題に目が向きがちでしたが、村の外側から見ることができ視野を広げることができました。

また、政策の検討・立案・実行にあたって、いかに行政の視点に偏らず村民や事業者等様々な視点に立ち、行政だけではなく村民や地域・事業者を巻き込むことの重要性和政策の先にある理想像と現実としての実現可能性とのギャップを埋めるために「どこに」「どのように」力を入れ、バランスをとっていかの難しさを実感しました。

同時に、課題解決のための思いや考え方を政策として文章で書くことと言葉で伝えることとの差の大きさを感じた政策研究会でもありました。簡潔にわかりやすくとは常に言われることですが、現状や課題・根拠を明確に一連の流れを保ちつつ相手方が納得する説明を簡潔明瞭に行う事が本当に難しいことであると学びました。

今後、自治体が抱える課題に立ち向かうため今回の経験を活かし、広い視野と多くの視点を持ち、理想と現実のバランス感覚を養い伝える技術の向上に努めていきたいです。

最後に、今回の政策研究会にあたりご協力いただいた事業者の皆様やこのような機会を与え、支援して下さった関係者の皆様に感謝申し上げます。



平田村企画商工課 主任主査 芳賀 正和

近年、多くの自治体が抱える共通課題として人口減少が挙げられますが、今回のフィールド自治体型政策研究会は一つの自治体を7か月間という長期にわたり交流人口の拡大から移住の受け入れまでのプロセスについて提案をおこなうというものでした。

私自身、職員としての経験は20年以上ありましたが、提案した政策を発表するという経験に乏しく、今回の研究会では各自治体や県職員の方々と共に移住へつながる政策の提案について議論を重ねましたが、それぞれの所属自治体で積み重ねた経験と知識の量に圧倒されるばかりでした。研修自体もさることながら、メンバーとの意見交換の中で得た知識も今後の業務の参考となるものばかりでした。

今回発表した移住につながる政策はどこの自治体も注力している共通の課題でした。その中で如何に独自性と先進性を打ち出していくのかが大きなポイントであり、新しい考えを尊重する体制づくりも重要になってくると考えさせられました。

5. 事業提案

(1) 提案事業概要	15
(2) 事業提案書	17
(3) 発表資料	34
(4) フィールド自治体より事業提案を受けて …	81

～研究会を振り返って～

北海道大学 観光学高等研究センター
小泉 大輔

本研究会では、それぞれ異なる主務を有する6名の研究生が集い、玉川村をフィールドとして7ヶ月の長期に渡り交流人口拡大策の検討を重ねてきました。共に伴走してきた者として、まずは無事、政策提案へと結実することができたことを感慨深く思っております。研究生の皆さん、大変お疲れ様でした。

昨年度末、玉川村の観光をテーマとした研究会講師を打診された際、玉川村とって私の頭にパッと浮かんだのは、「福島空港」や「さるなし」といった程度の恥ずかしいものであり、会津を拠点に活動しているよそ者の私がどのようなお手伝いをできるかは全く未知数でした。

しかし、研究生とともにフィールドワークやヒアリング調査を重ねるにつけて、すま Plaza や森の駅 Yodge、道の駅での物産開発、乙字ヶ滝の整備計画、そして自転車を活用したまちづくり等、数々の素晴らしい施策が打たれていることを知り、地域振興に取り組む村職員の熱意にも大変感銘を受けました。これらの先進的な施策が進む中で、本研究会としては何を提案することが村のためになるのか、研究生は大いに悩んだことと思います。

私は研究会の冒頭で、「観光はまちづくりの総仕上げ」という言葉を紹介し、まず観光ありきではなく、地域の方が誇れるまちづくりに取り組んだ結果として観光交流が生まれること、また、地域のブランド化に際しては、ターゲットとなる来訪者（顧客）だけでなく、受入れ側である地元の方々にも理解してもらい、支持されること（インターナルブランディング）が政策持続性の観点からも大事であることを指摘しました。

今回の研究生による提案は、村を取り巻く社会状況や、これまでの施策を丁寧
に分析した上で、自転車を軸とした交流の取組を高く評価しつつ、それらを
更に強化し、村内外へより一層の認知拡大を図るための事業となっています。

実は当初、研究生は村への効果的な提案方法を検討した結果、「1 グループ 1
事業」の提案が原則であった本研究会において、まずは「1 人 1 事業」を考え
てから臨むという意欲的な形で始動し、各々のアイデアを基に、ソフト事業
を中心とした短中期班、仕組みや整備に言及する中長期班に分かれて具体的な
検討が行われました。

最終的には、政策としての訴求性や直近での実現性を踏まえ、『日本一自転
車が好きな村』推進事業』という大テーマの下、3つの事業へと整理されまし
たが、以上のような経緯から、6名という限られた人員にも関わらず、1つの
一大プロジェクトとも言えるような充実した提案となりました。

政策提案に当たっては、多くのステークホルダーの立場を理解しながら、
様々な制約条件を調整して事業を構築していく必要があります。その点では、
村の関係者の皆様はもとより、豊富な行政経験を有するセンター職員の方々か
らも、私だけでは目の行き届かない多くのご助言をいただき、提案内容の熟度
を高めていくことができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

研究生の皆さんは、今回学び得たことを活かして、それぞれの業務において
行政課題を適確にキャッチし、大胆かつしなやかに政策を実現できる人材とし
て活躍されることを願ってやみません。

玉川村におかれましては、都市圏に近接する優位性ととも、既存の素晴ら
しい施策を有機的に連携、充実させていくことで、より魅力ある村として更に
発展していく未来を確信しております。その一助として、本提案を少しでもお
役立ていただけましたら、私としましてもこの上ない喜びです。

5－(1)提案事業概要

「日本一自転車が好きな村」推進事業

6,900千円

玉川村政策研究会

背景・目的

- 移住定住は、観光から直ちにつながりつつなるものではなく、無関心の人々が交流人口や関係人口となった先の話であり、段階に応じた効果的な取組が必要である。
- 玉川村が宣言している「日本一自転車が好きな村」は自転車愛好家には認知されているが、村民を含め自転車愛好家以外には、認知が不十分な状況である。
- 「日本一自転車が好きな村」実現のため、すべての村民に自転車を好きになってもらう、住民と協働し「あそび」から更なる交流人口・関係人口の拡大を図る。
- さらに、交流人口・関係人口を「くらし」「しごと」体験により長期滞在への移行を促し、移住・定住に確実に実現につなげる。

事業概要

- (1) SNS（動画）を活用した玉川村の魅力発信事業（1,200千円）
自転車に関するショートムービーコンテストを実施し、新たな魅力発見及び村外への発信力の強化を目指す。【STEP1】
- (2) 自転車でめぐる！たまたかわぐるっとサイクリング事業（1,500千円）
地域を自転車で周遊するイベントを実施し、来村者拡大及び村民と関わるきっかけを創出する。【STEP1】 【STEP2】
- (3) 田舎で「職・住」体験
「たまたかわ”乙な”ワークショップ」(4,200千円)
長期滞在への移行により、継続的な関係性構築により具体的な移住先の候補としてもらう。【STEP3】

《事業イメージ》

- ◆ 移住体験ツアー—
- ◆ 「くらし」「しごと」体験
- ◆ 村民・移住者交流会

- ◆ 自転車を活用した村内事業者協働の村内周遊イベント
- ◆ 競技以外の部門も設置
- ◆ 自転車コラボメニュー開発

- ◆ SNSの発信力強化
- ◆ 自転車をテーマにしたショートムービーコンテストの実施

知らない・無関心

【STEP1】
交流人口
獲得・拡大

【STEP2】
関係人口
獲得・拡大

【STEP3】
移住
定住へ

※用語定義

交流人口：玉川村に興味を持ち、観光等のため訪れる人
関係人口：玉川村や村民、地域と関わりを持つ人

5－(2)事業提案書

事業提案書

1. 事業名	SNS（動画）を活用した玉川村の魅力発信事業
2. 事業目的	<p>玉川村が宣言している「日本一自転車が好きな村」に着目して交流人口を拡大するため、自転車に関心のない村民を巻き込み、自転車愛好家以外の人々にも玉川村を知ってもらう機会を創出することを目的とする。</p>
3. 事業概要	<p>【①現状】</p> <p>玉川村では、村外から人を呼び込む先進的な事業の実施により、多くの人の目に触れる機会が多くなっている。特に、自転車関連事業は県外も含め村外からの自転車愛好家の来村のきっかけとなっている。</p> <p>しかし村に関連する SNS は、一定数のフォロワーや登録者を確保できているが、更新頻度や投稿内容のバリエーションが少なく、SNS を有効活用できていない。</p> <p>【②目指すべき姿・成果目標（KPI）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福島県玉川村 LINE 公式アカウント友だち数 (R6) : 163人 → 750人 ・ 玉川村公式 YouTube チャンネル登録者数 (R6) : 262人 → 500人 ・ 玉川村観光物産協会 Instagram フォロワー数 (R6) : 1584人 → 3000人 <p>【③課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS を有効活用した情報発信が不足している。 ※更新頻度が低いため投稿を見つけてもらえず、発信内容が形式的で固い印象がある。 ・ 村民や村内の事業者を巻き込んだ取り組みが不足している。 <p>【④事業内容】</p> <p>観光物産協会への業務委託により実施する。玉川村の認知度向上に成果が見られ始めているが、村内の理解が進んでいない自転車関連事業に着目し、SNS の有効活用と村民を巻き込んだ情報発信を行うため、動きのある自転車と親和性の高い短時間の動画を SNS 上で募集し、優秀な作品を表彰する、「日本一自転車が好きな村ショートムービーコンテスト」を実施する。</p> <p>【⑤事業実施のメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 村に関連する SNS の稼働率向上及び投稿内容のバリエーションが増加することにより、登録者数やフォロワー数が増加する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・静止画よりも伝えられる情報量が多い動画で発信することによって、見ている人の目にとまりやすくなり、より興味を引く ・動画作成による自転車関連施設の利用者が増加する ・村のプロモーションビデオ等を作成する際の素材の獲得、新たなスポットなどの開拓 <p>【⑥村現行事業との比較検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たまかわグルメフォトキャンペーン2023 期間中に Instagram に投稿された玉川村のグルメに関する写真のなかから、抽選で投稿者に賞品が贈られる事業。 グルメをきっかけに玉川村を知った人へ、さらに自転車事業についても知ってもらえるよう、各事業間で連携を図る。 ・サイクルビレッジたまかわ 各 SNS ですでに情報発信を行い、自転車愛好家から認知を得ている。本事業では自転車愛好家以外の視聴者やフォロワーの獲得を目指し、各事業間でも相互に宣伝できるよう連携する。 <p>【⑦事業効果の検証方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末における玉川村 LINE 公式アカウント友だち増加数 ・年度末における玉川村公式 YouTube チャンネル登録者増加数 ・年度末における玉川村観光物産協会 Instagram フォロワー増加数
4. 実施主体	玉川村
5. 実施期間、スケジュール	<p>【令和6年度】 事業の計画・周知：5月 作品募集：6月～1月中旬 受賞作品選定：2月 表彰・商品発送：3月</p> <p>【令和7年度以降】 継続実施＋入選作品のPRへの活用、事業の評価及び次年度以降の事業実施等の検討</p>
6. 予算概要	<p>【令和6年度】 ≪歳入≫ 一般財源 1,200千円 ≪歳出≫ 業務委託料 1,200千円 内訳 ・賞品代 240千円 ・Web 広告 600千円 (@100千円×6か月) ・新聞折込広告(印刷料・折込料合計) 100千円 ・デジタルサイネージ(5ヶ月) 110千円 ・その他(送料、審査謝礼等) 150千円</p> <p>【令和7年度以降】 令和6年度と同額ベース</p>

(別紙)

「日本一自転車が好きな村ショートムービーコンテスト」事業内容詳細

【募集テーマ】

- 日本一自転車が好きな村

【募集期間】

- 6月～1月中旬(年1回)

【応募要件】

- ① YouTube、Instagram、LINEを使用する。
- ② YouTubeはチャンネル登録、Instagramはフォロー、LINEは友だち追加すること。
- ③ YouTube、Instagramへの投稿は指定のハッシュタグ「日本一自転車が好きな村たまかわ」を付けること
- ④ 動画は15秒以内とすること
- ⑤ 村内で撮影された、自転車が関連する動画であること

【各賞：賞品】

- 最優秀賞(1名)、優秀賞(3名)、特別賞(5賞×2名ずつ)
特別賞区分 「体験賞」…トレイルコースの体験の様子など
「技賞」…BMXの練習風景、BMX教室の様子など
「自然賞」…村内の美しい景観を背景に自転車で走っている様子など
「日常賞」…村民の日常風景で自転車がからむものなど
(例：子どもたちが初めて自転車に乗れた瞬間
自転車について語る動画 など)
「旅賞(旅行)」…観光で自転車を使って村内を周遊している様子など
- 最優秀賞受賞者に5万円相当、優秀賞受賞者へ3万円相当、特別賞受賞者へ1万円相当の賞品を贈呈する。

【村民(特に高齢者)を巻き込むための工夫】

- ① 動画の募集期間内に、SNS・動画作成教室を実施し、SNSになじみの薄い高齢者層にもSNSやショートムービーコンテストへ興味をもってもらおう。
- ② 受賞作品を、村民からの投票によって選出する。
投票方法…村役場等、村の施設で最終候補作品を放映し、訪れたひとに気に入った作品を選んでもらう。得票数の多かった順に最優秀賞、優秀賞とする。

【実施後の活用】

投稿作品は村の公開用コンテンツとして分かりやすく編集した上で、以下のような活用をしていく。

- ①移住相談等でのPRコンテンツとしての活用
- ②福島空港、就航先空港でのデジタルサイネージでの放映
- ③観光パンフレットへの掲載（2次元コードによる誘導）

【令和7年度以降の事業展開】

撮影時期等を分析し、募集時期や回数を検討。

また、自転車事業だけではなく、夏祭り等他の玉川村主催の事業や、民間事業者との連携を図る。

事業提案書

<p>1. 事業名</p>	<p>自転車めぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業</p>
<p>2. 事業目的</p>	<p>自転車愛好家の他に村内や近隣市町村の住民もターゲットとした、村内の観光スポット等を周遊するイベントを開催し、「サイクルヴィレッジたまかわ」に対する村民の認知度、興味・関心度の向上、交流人口の拡大、関係人口の深化を図り、住んでよし、訪れてよしの「日本一自転車が好きな村」を目指す。</p>
<p>3. 事業概要</p>	<p>【①現状】</p> <p>玉川村では、「日本一自転車が好きな村」をテーマに掲げ、自転車愛好家を主なターゲットとしたサイクルヴィレッジたまかわ事業を実施している。具体的には、トレイルコース、スキルパークたまかわ、アーバンスポーツたまかわといった各種施設のハード整備を進めるとともに、YouTube等を活用した情報発信を行っている。</p> <p>その成果として、県内外の自転車愛好家からの玉川村の認知度は向上し、県外から継続的に来村している事例も見られる等、交流人口の拡大、関係人口の創出につながっている。</p> <p>その一方で、「サイクルヴィレッジたまかわ」について村内でヒアリングをしたところ、利用者ではない村民の認知度や関心が低く、利用者も他市町村や県外の方がほとんどであることが分かった。</p> <p>また、これまでサイクルヴィレッジたまかわ事業では、「トレイルライド&エンデュアロレース」「さるなし JAM」、「BMX スクール」等の様々なイベントを開催してきたが、広く村民が参加できるイベントや、村内を周遊できるイベントの開催はこれからであり、参加者に固定化が見られるものもある。</p> <p>【②目指すべき姿・成果目標（KPI）】</p> <p>(1) 目指すべき姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉川村の目指すテーマや活動（日本一自転車が好きな村）について、村民の理解と関心を高めて共感を促し、村民を巻き込みながらサイクルヴィレッジたまかわ事業に取り組み、玉川村を日本一自転車が好きな村としてブランド化する。 <p>(2) 成果目標（KPI）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サイクルヴィレッジたまかわ」イベント参加者数（単年）：150名（村民以外の参加者数：100名、村民：50名）

※玉川村観光振興計画 R4：不明、R6：300人

- ・イベントへの協力事業者数：10事業者

【③課題】

- ・玉川村がこれまで取り組んできた土壌を活かしながら、村民が広く参加することができ、村民や村内事業者が一体となって「サイクルヴィレッジたまかわ」に携わることができる機会が必要である。
- ・玉川村の将来を担う若年層にも「サイクルヴィレッジたまかわ」に触れてもらう機会が必要である。

【④事業内容】

(1) 主な内容：

各チームが自転車で村内各地に設定されたチェックポイントを制限時間内に自由にめぐり、獲得ポイントを競うイベントを開催する。イベントでは、獲得ポイントを競うとともに、自転車を通して玉川村の自然や文化に触れ、体験をすることで地域住民との交流も楽しむことができる。さらに、年齢や性別により部門分けをすることで、自転車愛好家から子どもまで誰でも楽しむことができる。

また、イベントに向けて、玉川中学校と村内の希望する飲食店が共同で「サイクルヴィレッジたまかわ」コラボメニューを開発し、サイクリストをおもてなしする体制づくりとしての実証実験を行うとともに、若年層の地域理解や郷土愛の醸成につなげ、「日本一自転車が好きな村」を目指す。

(2) 事業期間

- ・4月～12月（イベントは10月下旬に1日での開催）

(3) 運営方法

- ・民間事業者への業務委託

※事業内容の詳細：別紙のとおり

【⑤事業実施のメリット】

- ・参加者について、自転車愛好家ではない層もターゲットとしたイベントの開催により、幅広い層の「サイクルヴィレッジたまかわ」の認知拡大、興味・関心度の向上につながる。
- ・参加者以外の村民について、玉川村全域で観光スポットを多くのサイクリストが周遊するイベントを開催することにより、これまで「サイクルヴィレッジたまかわ」を知らなかった、興味がなかった村民の注意を引き、認知拡大、興味・関心度の向上につながる。
- ・イベント中、チェックポイントまでの道案内や体験チェックポイントでの交流により、参加者と村民との間に交流が生まれ、地域の活性化につながる。とともに、村民や村内の事業者が携われるイベントを開催することにより、村が一体となって「サイクルヴィレッジたまかわ」に取り組

める。

- ・チェックポイントの選定を、村民や県内外の学生（玉川大学等）、観光物産協会、商工会、地域おこし協力隊等で構成するワークショップで行うことにより、新しい視点での玉川村の豊富な地域資源の見直し・磨き上げや新たな観光資源の発掘・開発につながる。
- ・ワークショップでの作業の様子や途中経過等もSNSで発信することで、玉川村のSNSの更新頻度の上昇につながるとともに、村内外を問わず多くの人に「サイクルヴィレッジたまかわ」への興味・関心を持ってもらうきっかけとなる。
- ・乙字ヶ滝（玉川村西部）や森の駅 yodge（玉川村東部）等の観光スポットを周遊するイベントを開催することで、開催後の参加者へのアンケート調査等から、自転車を用いた村内の周遊性の向上につながる。
- ・玉川中学校と村内の希望する飲食店、事業者との共同での「サイクルヴィレッジたまかわ」コラボメニューの開発により、「日本一自転車が好きな村」としてサイクリストをおもてなしすることができる。また、若年層の地域理解や郷土愛の醸成、「サイクルヴィレッジたまかわ」の浸透、キャリア形成学習につなげることができる。
- ・チェックポイントとして、様々な観光スポットの他、アクティビティ等の体験や飲食店、商店も設定することにより、玉川村の自然や歴史、食など様々な魅力を心と体で感じてもらい、玉川村を「多様なアクティビティを体験できる場所」として多くの人に認知してもらうことができる。

【⑥村現行事業との比較検討】

サイクルヴィレッジたまかわ事業により、県内外の自転車愛好家からの玉川村の認知度は向上し、県外から継続的に来村している事例も見られる等、交流人口の拡大、関係人口の創出につながっている。

これまではハード整備や自転車愛好家を主なターゲットとするイベントの開催が中心的事業内容であり、参加者関係者ともにやや限定的であったが、今後は、自転車愛好家ではない村民等をターゲットとした情報発信や村内の様々な観光スポットを周遊するイベントの開催を検討する段階にあると言える。

そこで本事業では、村現行事業で作りに上げてきた土壌を活かしながら、村現行事業の次のステップにあたるイベントを開催する。

※サイクルヴィレッジたまかわ事業のこれまで取り組んできた主な内容

- ・ハード整備（トレイルコース、スキルパークたまかわ、アーバンスポーツたまかわ）
- ・情報発信（YouTube、Instagram、LINE、Facebook等）
- ・イベント開催（「トレイルライド&エンデューロレース」「さるなしJAM」、「BMXスクール」）
- ・その他（レンタサイクルの貸し出し、村内の公共施設・商店等へのサ

	<p>イクルラックの設置)</p> <p>※サイクルヴィレッジたまかわ事業以外で関連する村現行事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気なたまかわウォーキング2023 <p>村内外から定員である500名を超える申し込みがあり、玉川村の観光スポットを周遊するイベントに一定の需要があることが分かる。</p> <p>【⑦他自治体の導入事例】</p> <p>(1) サイクルロゲイニングイベントの事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下郷町 <ul style="list-style-type: none"> イベント名：サイクルロゲイニング in 下郷 (R5) 参加者数：約70名 (定員：150名) 開催時期：10月15日 予算：1,000千円程度 実施主体：実行委員会 参加料：大人：3,000円、子ども：1,500円 ・川俣町 <ul style="list-style-type: none"> イベント名：川俣サイクルロゲイニング大会2023 (R5) 参加者数：106名 (定員：100名程度) 開催時期：11月19日 予算：6,000千円程度 実施主体：川俣町 (業務委託) 参加料：無料 <p>(2) 学生の力を活用した商品開発の事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿嶋中学校 (茨城県鹿嶋市) <ul style="list-style-type: none"> 中学生が地元飲食店とコラボメニュー開発 (R3) 鹿嶋中学校2年生の生徒が市内15店舗の飲食事業者とメニュー開発を行い、うち3店舗同校生徒と事前販売を行った。 ※職場体験学習の一環として実施 ・船引高校 <ul style="list-style-type: none"> 地元企業とコラボしたスイーツの開発 (H29) おからを使ったスイーツを、船引高校と(有)大畑屋食品 (三春町) がコラボして開発、販売した。 ※福島県環境総務課の提案で実現 <p>【⑧事業効果の検証方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末時点でのイベント参加者数や協力事業者数等の実績
4. 実施主体	玉川村

<p>5. 実施期間、スケジュール</p>	<p>【令和6年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～5月：委託事業者選定、コラボメニュー協力店募集、玉川中学校調整 ・ 6月～8月：ワークショップ開催、コラボメニュー開発 ・ 9月：参加者募集、村内周知 ・ 10月下旬：イベント開催（さるなしの収穫時期とあわせる） ・ 11月～12月：振り返りワークショップ開催、次年度以降の実施時期や新規協力事業者の検討・見直し <p>【令和7～8年度（サポート事業期間内）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度に同じ ※サイクリングイベントについては、春の開催や複数市町村での開催も検討する。 ※コラボメニューの開発については、既存のさるなし関連商品のパッケージデザインとして、村内の小・中学生がデザインした自転車に関する絵画等の採用を検討する。
<p>6. 予算概要</p>	<p>【令和6年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業費：1,500千円 内訳：委託料：1,000千円 <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント運営：700千円 ・ ワorkshop開催（5回程度）：100千円 ・ 広報等：200千円 賞品代：350千円 コラボメニュー開発補助（材料費、会場費等）：150千円 ・ 財源：1,500千円 内訳：福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）：2/3 一般財源、協賛金、参加料：1/3 <p>【令和7～8年度（サポート事業期間内）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度に同じ ※開催内容等によって変更

事業提案書（別紙）

1. 事業内容の詳細（たまかわぐるっとサイクリング）

【イベント名】

自転車でめぐる！たまかわぐるっとサイクリング

【開催日】

2024年10月下旬

【開催場所】

玉川村全域（スタート・ゴール：たまかわ文化体育館）

【参加費】

- ・ 村民：無料
- ・ 村民以外：1,000円／人

【エントリー部門】

（1）競技部門

- ・ 対象：県内外の自転車愛好家向け
- ・ 条件：なし

（2）たまかわ満喫ゆるふわ部門

- ・ 対象：自転車愛好家ではない村内や近隣市町村の住民向け
- ・ 条件：チームに村民、女性のいずれか1人以上が入っていること

（3）親子部門

- ・ 対象：村内や近隣市町村の親子向け
- ・ 条件：チームに中学生以下の子どもが1人以上入っていること

【定員】

3部門合わせて150名程度（1チーム2名以上5名以内）

【チェックポイント】

（1）撮影チェックポイント（観光関連施設や景勝地等、村内全域に30か所程度）

チェックポイントを1名以上のメンバーを含めて撮影することでポイント獲得。

獲得標高が高いところや、スタート地点から遠いところは獲得ポイントを高く設定する。

例：乙な駅たまかわ、森の駅 yodge、「写真になる村」PHOTO SPOT、東野の清流、エミュー牧場、

福島空港、乙字ヶ滝、すがまプラザ交流センター、ボートピアたまかわ、川辺八幡神社 等

(2) 体験チェックポイント (村内5か所程度)

体験をすることでポイント獲得。

時間がかかる体験や、スタート地点から遠い場所での体験は獲得ポイントを高く設定する。

例：さるなし収穫体験、VRカヌー体験、BMX体験、トレイル体験

バームクーヘン・ピザ作り体験、道の駅たまかわ「こぶしの里」での加工体験 等

(3) 食事チェックポイント (村内の飲食店5か所程度)

村内の飲食店で食事をするすることでポイント獲得 (コラボメニューは獲得ポイント2倍) (1回限り)。

例：協力店舗

(4) 買物チェックポイント (村内の商店等5か所程度)

1,000円以上の買い物をするすることでポイント獲得 (1回限り)。

例：道の駅たまかわ「こぶしの里」、空の駅たまかわ、協力店舗 等

【チェックポイントの選定方法】

村民 (希望者)、村内外の学生 (玉川大学等)、観光物産協会、商工会、地域おこし協力隊等で構成するワークショップにより、チェックポイントの場所、ポイント等を選定する。

チェックポイントは、初心者から上級者まで楽しめる設定とする。

※ワークショップでの作業の様子や途中経過等もSNSで発信することで、玉川村のSNSの稼働率向上に資するとともに、村民に「サイクルヴィレッジたまかわ」への興味を持ってもらうきっかけを作る。

【表彰 (各部門共通)】

- ・ 1位：森の駅 yodge 宿泊券、特産品詰め合わせ、賞状 (30,000円相当)
- ・ 2、3位：村内限定商品券、特産品詰め合わせ、賞状 (10,000円相当)

【特別賞】

(1) ムービーコンテスト賞：特産品詰め合わせ (3,000円相当)

日本一自転車が好き村ショートムービーコンテストと連携し、イベント当日に撮影・編集された動画をSNSに投稿してもらい、「サイクルヴィレッジたまかわ」の魅力を伝えられている動画を投稿した3チームを後日表彰する。

(2) たまかわぐるっと駅制覇賞：特産品詰め合わせ (3,000円相当)

乙な駅たまかわ、道の駅たまかわ、空の駅たまかわ、森の駅 yodge、健康の駅たまかわ、こどもの駅の6駅をすべてめぐったチームのうち、ポイント獲得数上位3チームを表彰する。

(3) ベストフォト賞：特産品詰め合わせ (3,000円相当)

イベント当日に撮影された写真を、ハッシュタグ「たまかわぐるっとサイクリング2023」をつけてInstagramに投稿してもらい、本イベントの楽しさや「サイクルヴィレッジたまかわ」の魅力をよりよく伝えられている写真を投稿したチームを後日表彰する。

(4) 親子フォト賞：特産品詰め合わせ (3,000円相当)

イベント当日の小学生を含めて撮影された写真を、ハッシュタグ「たまかわぐるっとサイクリング2023」をつけてInstagramに投稿してもらい、親子で楽しく体験やサイクリングをして

いる様子が伝わる写真を投稿したチームを後日表彰する。

【参加者特典】

- ・村内限定商品券（1,000円相当）
 - ・静脈認証や顔認証等、イベント実施中に展開しているキャッシュレスサービスで利用できる玉川村デジタル地域商品券（500円分）
- ※イベント当日に登録ブースを設置し、利用拡大を図る。

【その他】

- ・開催期間を数か月単位ではなく1日とした理由
デジタルスタンプラリーの機能を有するアプリを活用し、期間内ならいつチェックポイントを巡っても良いとする、数か月単位でのサイクルロゲイニングイベントを開催している事例もある。

しかし、本イベントでは村民の「サイクルヴィレッジたまかわ」に対する認知度、興味・関心度の向上を目的としていることから、1日限定で村内全域を舞台としたイベントを開催することにより、村民の注目をより引くことができるため1日とした。

また、1日で開催する場合、イベント中はスマートフォンの地図アプリ等を使わず、地図や観光案内パンフレット等を頼りにチェックポイントを探すこととするため、チェックポイントがなかなか見つからない場合、村民に聞きながらチェックポイントに向かっても良いことを事前に参加者・村民に知らせておくことで、村が一体となったイベント開催につながる。

2. 事業内容の詳細（「サイクルヴィレッジたまかわ」コラボメニューの開発）

【連携先】

- ・玉川中学校：グループワークでのアイデアの提案

※総合的な学習の時間を活用

インターンシップに近い、企画提案型の職場体験学習を地元飲食店や行政との協力のもと実施することにより、中学生の地域への理解、郷土愛の醸成、キャリア形成につながる。

- ・地元飲食店（協力店舗）：試作品作成、販売
- ・玉川村：開発費（会場費、材料費等）補助

【コラボメニューの方向性】

- ・玉川村の特産品（さるなし、トマト等）等を活用し、自転車を模したメニューや、サイクリストが食べるのに適したメニューを開発し、サイクリストをおもてなしする体制づくりとしての実証実験を行い、「日本一自転車が好きな村」を目指す。

事業提案書

1. 事業名	田舎で「職・住」体験たまかわ“乙な”ワークツーリズム事業
2. 事業目的	<p>「自転車めぐる！ぐるっとたまかわサイクリング事業」により獲得した「短期滞在型」の交流・関係人口を、村民協働で村内での「職・住」体験の機会や村民との交流の場の提供により、「長期滞在型」へ移行させ、村と継続的かつ良好な関係性を築くことにより、移住の候補地へとつなげるキッカケをつくる。</p> <p>また、若い世代のU・Iターン・副業・兼業・関わり・働くをつくる。</p>
3. 事業概要	<p>【①現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 20歳から40歳の若い世代が地域外へ流出している。 (進学・就職をきっかけに村を離れる若者が多い) ○ 移住支援の補助金メニュー(転入後の補助金)はある。 ○ 短期滞在が可能なお試し住宅・テレワーク施設がある。 ○ 村基幹産業は農業であるが、後継者不足や遊水池計画によって農地移転を余儀なくされるなど危機。 <p>【②目指すべき姿・成果目標(KPI)】</p> <p>(1) 目指すべき姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 移住先として選ばれる村 くらしや働く場所の拠点や移住先として住んでみたい、住み続けたい村 若い世代が安心して働ける場がある <p>(2) 成果目標(KPI)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 移住体験ツアーへの参加者数 30名 (令和4年度『「たまかわ観光型短期滞在住宅」を活用したトライアルステイ実証事業』参加者数:10組12名) ○ 宿泊体験先場所: 5先(現状1先) ○ 就業体験先企業: 10先(現状2先) ○ 就農体験先農家: 5先(現状0先) ○ 交流会開催 : 10回(12/1~12/5 現状1回) <p>【③課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 移住支援補助金メニューは豊富にあるが、移住の決定要素である「しごと」に関する押し出しが弱い。 ○ 長期滞在・体験できる宿泊施設が少なく、需要を取りこぼしている。 ○ 農業の後継者育成や耕作放棄地への対策が急務である。

- 移住をイメージしてもらうための体験の場や移住を決断してもらうための交流機会が不足している。
- 一過性の観光を超えた継続的な交流を促し、暮らしや働く場所の拠点や移住先として関心をもってもらおう。
- 若い世代の減少により、空き家の増加懸念がある。

【④事業内容】

田舎で「職・住」体験たまかわ”乙な”ワークツーリズム事業

《概要》

- 参加者にたまかわでの暮らしや働き方の再考を促しながら、地域の人々との交流やたまかわの深い魅力を体験してもらい、新たな活動・居住拠点としての玉川村のプライオリティを高め、その結果として移住先として選ばれることを目指す。
- 初年度の移住体験の運営、広報はノウハウのある委託業者が行う。
- 原則毎月開催募集を行い、しごと・くらし体験期間は3日以上を基本とする。
- 費用は無料（たまかわの魅力を滞在中に SNS で発信条件）とし、各回定員は最大5名。
- 対象は20～40歳の若い世代をメインターゲットに、テレワーク移住検討者・学生をサブターゲットに設定、（自転車事業で獲得した自転車が好きな短期滞在者の参加も可）
- 移住コンシェルジュが委託業者と連携して、申込者に対して移住相談に関するアドバイスを行うとともに、村の魅力を PR。
- 移住先・地域住民との交流＋オンライン事後セミナーを開催。

《「しごと」体験》

たまかわでのしごとや暮らしを立体的に体験しながら、将来的な移住やUI ターン・副業・兼業を見据えて継続的な関わりを作るメニュー

- 企業就労プラン：村内の企業と連携し、就業体験を行う。
- 就農体験プラン：村内の農家と連携し、就農体験を行う。
- ワークেশヨンプラン：副業・兼業・ワークেশヨン可能な希望者には、テレワーク、ワークেশヨンができる施設案内を行い、副業・ワークেশヨン人材も募集し、コワーキングスペースの稼働率向上を図る。ワークেশヨン参加企業の募集
- ものづくり体験プラン：しごと体験プラン参加者以外の同伴者が参加するプログラム。道の駅での料理体験や木工・農業体験など

《「マッチング・交流会」》

- 既存のお試し住宅や旅館等に宿泊してもらう。
- 村民・移住者との交流会・相談会に参加してもらい、移住への機運を高めてもらう。
- 参加者にたまかわの魅力を SNS で発信してもらう。

	<p>【⑤事業実施のメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「自転車めぐり！たまかわぐるっとサイクリング事業」で獲得した交流及び関係人口を移住へとつなげることができる。 ○ 移住前に「しごと」「暮らし」の面での不安が解消し、具体的な移住の候補先となる。 ○ 村での就業の在り方を具体的に想像できる。 ○ 企業や農家の後継者不足・人手不足を解消できる。 ○ 耕作放棄地も解消できる。 ○ 村民の移住者の受け入れ体制が整備される。 ○ 地方移住を検討している人との対話ができ、関係構築ができる。 <p>【⑥村現行事業との比較検討】</p> <p>村では、体験コンテンツとして、『「たまかわ観光型短期滞在住宅」を活用したトライアルステイ実証事業』を実施しているが、「暮らし」体験が主の事業である。具体的な移住の決定要素である村での「しごと」・働く場を提案し、体験就職できる事業とする。</p> <p>【⑦他自治体の導入事例】</p> <p>和歌山県白浜町、有田川町では、古民家での田舎暮らし体験やみかん農家でのインターンシップを実施しており、本事業では、就農・就業体験を参考とした。</p> <p>【⑧事業効果の検証方法】</p> <p>年度末に移住体験ツアーへの参加者数、宿泊体験先件数、就業体験先企業件数、就農体験先農家件数、交流会参加者数の実績を整理する。</p>
4. 実施主体	玉川村
5. 実施期間、スケジュール	<p>【令和6年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 移住体験ツアーの計画検討、実施 ○ お試し住宅の確保 ○ 宿泊体験先への協力依頼、登録 ○ 就業体験先企業への求人協力依頼、登録 ○ 就農体験先農家への求人協力依頼、登録 ○ 事業の評価・検証 ○ 学生対象ツアーやテレワークツアーなど毎月対象者・テーマを決め実施 ○ 村民の移住者との交流等機運を高めるため、たまかわいい移住の日を設定。 <p>【令和7年度以降】</p> <p>令和6年度に同じ</p>

	<p>※ お試し住宅の拡充、空き家を活用した宿泊施設の整備を行う。</p>
<p>6. 予算概要</p>	<p>【令和6年度】 事業費：4,200千円 (内訳) ・業務委託料(運営、広報等) : 2,000千円 ・商品代(地域商品券) : 200千円 ・補助金(交通費、宿泊・体験等) : 1,500千円 ・職業紹介ページ作成料 : 500千円</p> <p>財源 ・県補助金：ふくしま移住希望者支援交通費補助金：300千円 ・その他補助金：移住定住交流推進支援事業助成事業 ((一社)地域活性化センター)：2,000千円 ・一般財源、特別交付税措置</p> <p>※移住交通費・宿泊費については、ふくしま移住希望者支援交通費補助金の申請者を対象に差額を基準額として補助をおこなう。</p> <p>【令和7年度以降】(検討) 事業費：令和6年度+宿泊体験先整備費5,000千円+運営委託費</p> <p>財源： ・国(農水省)補助金 ：宿泊に向けた住宅等整備補助金：5,000千円 (事業促進・運営補助金(宿泊事業者向け)、 事業運営委託(マッチング事業者向け)) ・県補助金 ふくしま移住希望者支援交通費補助金 ・その他補助金 ：移住定住交流推進支援事業助成事業 ((一社)地域活性化センター) ・一般財源、特別交付税措置</p>

5－(3) 発表資料

令和 5 年 度 フィールド自治体型政策研究会 成 果 報 告 会



交流人口拡大からはじめよう！
観光資源を生かした移住促進施策
について考える

令和 5 年 度

フィールド自治体型政策研究会 @ 玉川村

福島県 木谷 淳一 三浦 向日葵 志波 真英
矢吹町 星 雄太 平田村 芳賀 正和
玉川村 小林 安貴



交流人口と関係人口

交流人口：玉川村に興味を持ち、
観光等のため訪れる人

関係人口：玉川村や村民、
地域と関りを持つ人
例：村内の観光施設等利用者

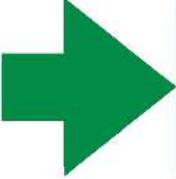
※参考：玉川村観光振興計画

0-1

事業提案の視点

「日本一自転車が好き村」に着目

- ・ 自転車愛好家から認知度向上
- ・ 県外からの来村拡大

 自転車事業の基盤を活用し、
更なる移住定住の拡大を図る

0-2

事業提案の視点

しかし、玉川村でのフィールドワークでは・・・

- ・ 村が力を入れているのは分かるが、
 村民はよくわかってない
- ・ 村民がよく理解したうえで進めることが大事
- ・ 3施設とも、村民の利用者は少ない



➡ 村民を含め自転車愛好家以外には、
 認知が不十分である

0-3

事業提案の視点

自転車が好きな
 村民の割合 **10**割にする

➡ 「日本一自転車が好きな村」
 推進事業

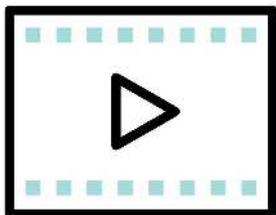
0-4

「日本一自転車が好きなた村」推進事業



0-5

「日本一自転車が好きなた村」推進事業



SNS（動画）を活用した
玉川村の魅力発信事業



0-6

自転車であめぐる！

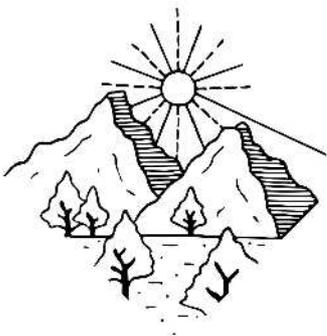
たまかわぐるっとサイクリング事業



0-7

田舎で「職・住」体験

たまかわ“乙な”ワークツーリズム事業



0-8

提案内容(目次)

- 1 SNS（動画）を活用した
玉川村の魅力発信事業
- 2 自転車でめぐる！
たまかわぐるっとサイクリング事業
- 3 田舎で「職・住」体験
たまかわ"乙な"ワークツーリズム事業
- 4 まとめ

0-9

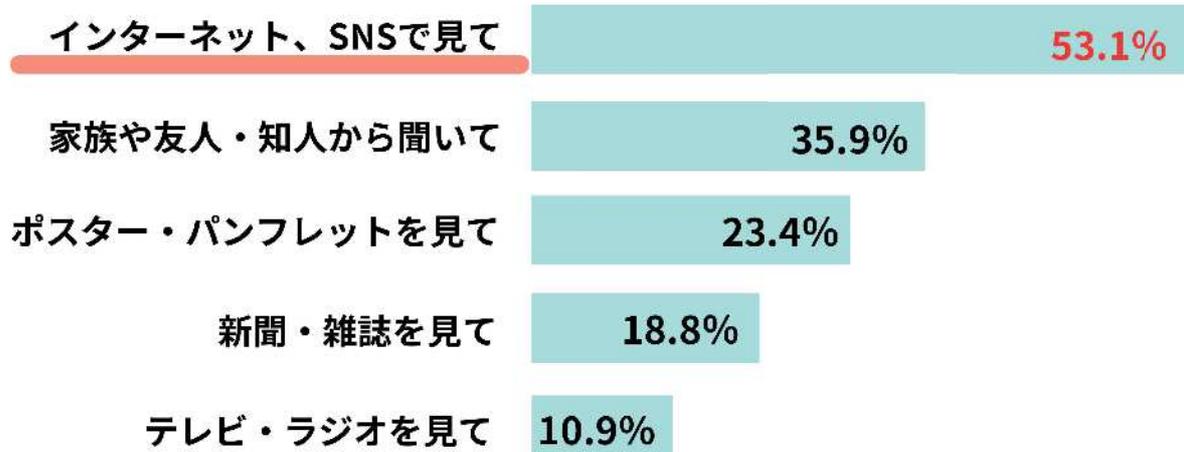
提案内容(目次)

- 1 SNS（動画）を活用した
玉川村の魅力発信事業
- 2 自転車でめぐる！
たまかわぐるっとサイクリング事業
- 3 田舎で「職・住」体験
たまかわ"乙な"ワークツーリズム事業
- 4 まとめ

1-0

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

玉川村の観光に関する情報の入手先



出典：令和4年3月玉川村観光振興計画（資料：地点ヒアリング調査）

1-1

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

玉川村の観光に関する情報の入手先

テレビ・チラシ・パンフレットよりも
インターネット・SNSの情報

→リアルタイムに情報発信できるSNSに着目

1-2

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

【令和4年度】主なソーシャルメディア系サービス/アプリ等の利用率

	LINE	Twitter	Facebook	Instagram	TikTok	YouTube
全年代	94.0%	45.3%	29.9%	50.1%	28.4%	87.1%

出典：令和4年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する往査報告書〈概要〉一部抜粋

1-3

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

【令和4年度】〔休日〕インターネットの利用項目別の平均利用時間

	メールを読む・書く	ブログやウェブサイトを見る・書く	動画投稿・共有サービスを見る	オンラインゲーム・ソーシャルゲームをする	ネット通販をする
全年代	22.9分	25.1分	74.1分	24.4分	4.3分

出典：令和4年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する往査報告書〈概要〉一部抜粋

1-4

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

インターネットの利用傾向

- LINE、YouTube、Instagramの利用率が高い
- 動画を見ている時間が長い

⇒ 3つのSNSを活用した、
動画での情報発信が効果的

1-5

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

玉川村SNSの現状：LINE公式アカウント

友だち登録者数：163人

- 人口が同規模の他自治体に比べて友だち追加数が少ない

↓人口が同規模の他自治体の状況

	下郷町	西会津町	檜葉町	泉崎村	天栄村
友だち数	269人	870人	1,030人	377人	1,136人

1-6

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

玉川村SNSの現状：福島県玉川村公式YouTubeチャンネル

チャンネル登録者数：262人

動画投稿本数：20本

- 動画の投稿本数、更新頻度が少ない

↓人口が同規模の他自治体の状況

	下郷町	檜葉町
登録者数/投稿本数	60人/19本	321人/36本

1-7

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

玉川村SNSの現状：玉川村観光物産協会公式Instagram

フォロワー数：1,584人

更新頻度：3～5日に1回

- 更新頻度が高く、フォロワーも確保
- 発信内容がイベント告知中心

↓人口が同規模の他自治体の状況

	下郷町（町公式）	檜葉町（観光協会）	天栄村（村公式）
フォロワー数	269人	1,030人	1,136人

1-8

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

成 果 目 標

単位：人

	現在 <small>(R5.11.末現在)</small>	R6年度末
福島県玉川村 LINE公式アカウント 友だち数	163	750
玉川村公式 YouTubeチャンネル 登録者数	262	500
玉川村観光物産協会 Instagram フォロワー数	1,584	3,000

1-9

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

課 題

SNSの情報発信力強化

- ①更新頻度をあげる
- ②投稿内容のバリエーションを増やす

1-10

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

課題解決のために

「日本一自転車が好きな村
ショートムービーコンテスト」を実施

- ・ SNSと自転車事業を一緒に盛り上げる
- ・ 村民にも自転車事業に触れてもらい、
一致団結して村外へPR

1-11

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

事業内容

投稿先 : YouTube、Instagram、LINE
(公式アカウントのフォロー等必須)

ハッシュタグ : 日本一自転車が好きな村たまかわ

動画の内容 : 15秒以内・村内で撮影・自転車関連

1-12

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

事業内容

【審査・表彰】

- とにかく自転車に関連すればOK
(作品応募のハードルを下げる)
- 最優秀賞・優秀賞・特別賞
↑体験、技、自然、日常、旅

1-13

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

事業内容

～村民を巻き込む工夫～

- SNS・動画作成教室の実施
- 村民投票による受賞作品の決定

1-14

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

事業内容

【応募作品の活用方法】

- ① 移住相談等でのPRコンテンツとする
- ② 福島空港、就航先空港のデジタルサイネージでの放映
- ③ 観光パンフレットへの掲載（2次元コード）

1-15

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

事業実施のメリット

- PR素材の獲得
- 静止画での発信よりも目を引く
- SNSの更新頻度アップ
+ 投稿内容の多様化

1-16

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

現行事業との比較

① たまかわグルメフォトキャンペーン2023

- ・インスタのグルメに関する投稿の中から抽選で商品を贈呈
- ・グルメから自転車へ、さらに知ってもらえるよう連携

② サイクルヴィレッジたまかわ

- ・各SNSで情報発信、自転車愛好家から認知
- ・事業を相互に宣伝できるよう連携

⇒自転車事業の裾野拡大へ

1-17

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

効果検証

年度末における

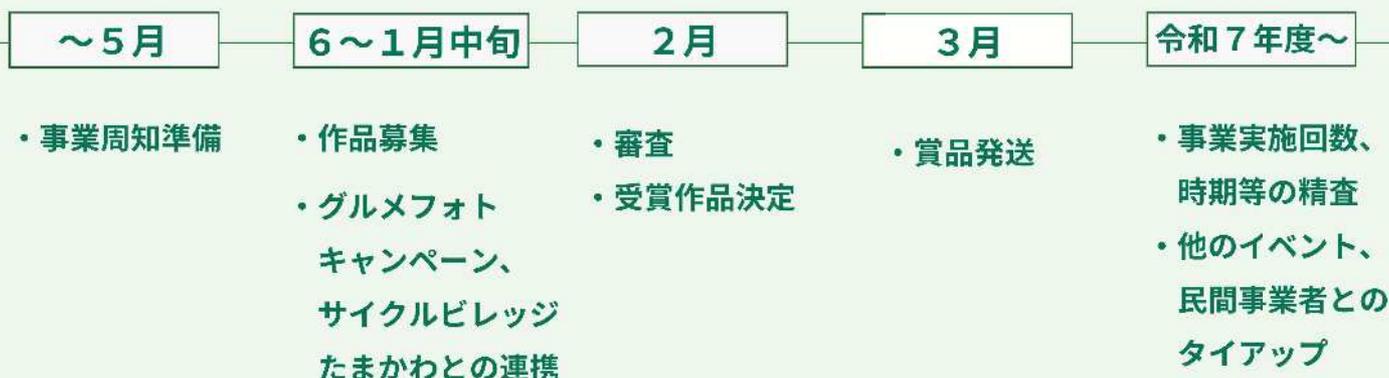
LINE、YouTube、Instagram登録者数

1-18

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

事業スケジュール（令和6年度）

令和6年



1-19

1 SNS(動画)を活用した玉川村の魅力発信事業

予算概要

○事業費：1,200千円（業務委託料）

【内訳】

- | | |
|-------------------|--------|
| ・賞品代 | ：240千円 |
| ・WEB広告、新聞折り込み | ：700千円 |
| ・デジタルサイネージ使用料 | ：110千円 |
| ・その他（賞品発送料・審査謝礼等） | ：150千円 |

○財源：一般財源

1-20

提案内容(目次)

- 1 SNS(動画)を活用した
玉川村の魅力発信事業
- 2 自転車でめぐる!
たまかわぐるっとサイクリング事業
- 3 田舎で「職・住」体験
たまかわ「乙な」ワークツーリズム事業
- 4 まとめ

2-0

2 自転車でめぐる!たまかわぐるっとサイクリング事業

玉川村の現状① (「サイクルヴィレッジたまかわ」の村民の認知や興味・関心)



日本一自転車が好きな村
「サイクルヴィレッジたまかわ」事業

県内外の自転車愛好家からの認知度は向上し、県外からの来村も

2-1

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

玉川村の現状①（「サイクルヴィレッジたまかわ」の村民の認知や興味・関心）

村内でのヒアリングで聴いた声

- ・村が力を入れているのは分かるけど、村民はよくわかってないんじゃないかな？
- ・村民にも理解してもらいながら進めることが大事じゃないかな？
- ・村内の自転車関連施設の村民の利用者は少ないなあ

利用者ではない村民には、十分に浸透していない

2-2

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

玉川村の現状②（村内でのイベントの開催状況）

これまでのイベント

- ・トレイルライド&エンデューロレース
- ・さるなしJAM
- ・BMXスクール



広く村民が参加できるイベント
村内を周遊できるイベント はこれから

アーバンスポーツたまかわ
第8回
BMXスクール
受付開始！

(出典：Cycle Village TAMAKAWA Facebook)

2-3

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

玉川村が目指すべき姿

「サイクルヴィレッジたまかわ」事業

村民の**共感**



村民と**共同**

日本一自転車が好きな村としてブランディング

2-4

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

課 題

「サイクルヴィレッジたまかわ」に

村民や村内事業者が広く
関わるができる

若年層が身近に触れる
ことができる

機会が必要

2-5

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

課題解決のために～事業内容～

自転車であぐる！ たまかわぐるっとサイクリング事業

2-6

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

課題解決のために～成果目標～

① 「サイクルヴィレッジたまかわ」
イベント参加者数 **150**名

(村民以外：100名、村民：50名)

※玉川村観光振興計画 R4：不明、R6：300人)

② イベントへの協力事業者数 **10**事業者

※年度末時点での実績をとりまとめて検証

2-7

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

概 要



村内全域に設定されたチェックポイントを巡り、**獲得ポイント**を競う



自転車を通して玉川村の様々な魅力に触れ、体験により**地域住民との交流**にもつながる



自転車愛好家から村民、親子まで、**誰でも楽しむ**ことができる



コラボメニューを開発し、サイクリストをおもてなしし、村全体で機運を醸成する

2-8

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

詳 細



開催日

・10月下旬



開催場所

・玉川村全域



エントリー部門

- ・競技部門
- ・たまかわ満喫ゆるふわ部門
- ・親子部門



参加料

- ・村民：無料
- ・村民以外：1,000円

2-9

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

チェックポイント

 撮影チェックポイント

 体験チェックポイント

 食事チェックポイント

 買物チェックポイント

2-10

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

 撮影チェックポイント

- ・ 観光名所、村内施設等
- ・ 約30か所

チェックポイントの例



東野の清流



エミュー牧場



写真になる村 PHOTO SPOT 2-11

2 自転車でめぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業



体験チェックポイント

- ・ 自然、アクティビティ、文化等の各種体験
- ・ 約5か所

チェックポイントの例



ざるなし収穫体験



VRカー体験（出典：福島民報2023年7月2日記事）ピザ作り体験（出典：森の駅yodge HP） 2-12

2 自転車でめぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業



食事チェックポイント

- ・ 村内の協力事業者
- ・ 約5か所

協力店舗と「サイクルヴィレッジたまかわ」コラボメニューの開発も行う
(コラボメニューを食べると獲得ポイント2倍)

2-13

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

買物チェックポイント

- ・ 村内の協力事業者
- ・ 約5か所

1,000円以上の買い物でポイント獲得

チェックポイントの例



道の駅たまかわ「こぶしの里」



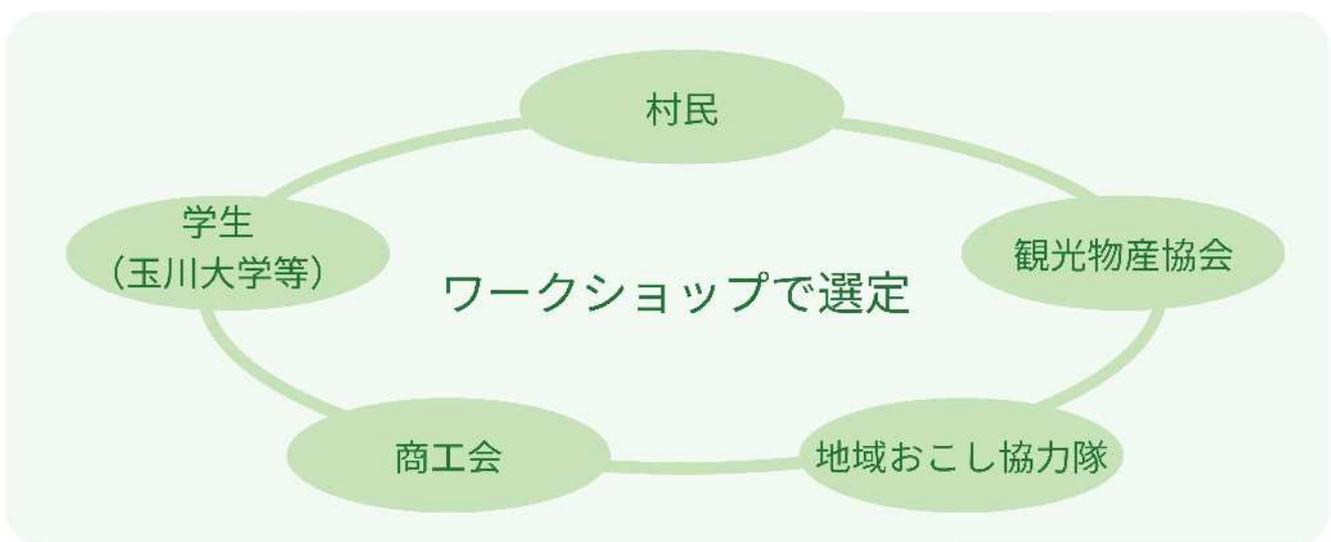
空の駅たまかわ



さるなし関連商品 2-14

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

チェックポイントの選定方法



2-15

2 自転車でめぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

表彰、参加賞、特別賞

表彰

- ・ 1～3位
- ・ 宿泊券、商品券、特産品等

参加賞

- ・ 商品券
- ・ 玉川村デジタル地域商品券 等



森の駅yodge



手ぶらキャッシュレス実証事業

2-16

2 自転車でめぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

表彰、参加賞、特別賞

特別賞

- ・ ムービーコンテスト賞
- ・ たまかわぐるっと駅制覇賞
- ・ ベストフォト賞
- ・ 親子フォト賞

たまかわ〇〇の駅シリーズ



乙な駅たまかわ



森の駅yodge



道の駅たまかわ



空の駅たまかわ



こどもの駅



健康の駅たまかわ

2-17

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

コラボメニュー



おもてなしにより、訪れても良しの日本一自転車が好きな村に

2-18

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

事業実施のメリット



幅広い層への「サイクル
ヴィレッジたまかわ」
の浸透



新しい視点での、玉川村の
地域資源の磨き上げや、
観光資源の発掘



村民が村内のイベントに
携わることができる
機会の創出



様々な魅力を心と体で感じ、
多様なアクティビティを体験
できる場所としての認知拡大

2-19

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

村現行事業との比較

村現行事業

(サイクルヴィレッジたまかわ事業)



本事業

(自転車であぐる！
たまかわぐるっとサイクリング事業)

日本一自転車が好きな村へ

2-20

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

他自治体の導入事例（サイクリングイベント）

下郷町（R5年度）

イベント名：サイクルロゲイニングin下郷
2023

参加者数：約70名（定員：150名）

開催時期：10月15日

予算：1,000千円程度

運営：実行委員会

参加料：大人 3,000円

子ども 1,500円



(出典：しもごうまち観光公社HP「サイクルロゲイニングin下郷」)

2-21

2 自転車でめぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

他自治体の導入事例（コラボメニュー）

茨城県鹿嶋市（R3年度）

- ・ 中学校2年生の生徒が、市内15店舗の飲食事業者とメニュー開発を行い、期間限定で販売
- ・ 「中学生の働くことの意義や見方・考え方の育成」を目的とした新しいカタチの「企画提案型」職場体験学習として進められ、事業者の理解と協力のもと実施



（出典：茨城県鹿嶋市 HP 「【鹿嶋市レポート】新しいカタチの職場体験！中学生が地元飲食店とコラボメニュー開発」）

2-22

2 自転車でめぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

事業スケジュール（令和6年度）



2-23

2 自転車であぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業

予算概要（令和6年度）

○事業費 1,500千円

【内 訳】

- ・業務委託料(イベント運営、ワークショップ開催、広報等)：1,000千円
- ・賞品代：350千円
- ・コラボメニュー開発補助：150千円

○財 源

- ・県補助金：福島県地域創生総合支援事業
- ・一般財源、協賛金、参加料

2-24

提案内容(目次)

- 1 SNS（動画）を活用した
玉川村の魅力発信事業
- 2 自転車であぐる！
たまかわぐるっとサイクリング事業
- 3 田舎で「職・住」体験
たまかわ"乙な"ワークツーリズム事業
- 4 まとめ

3-0

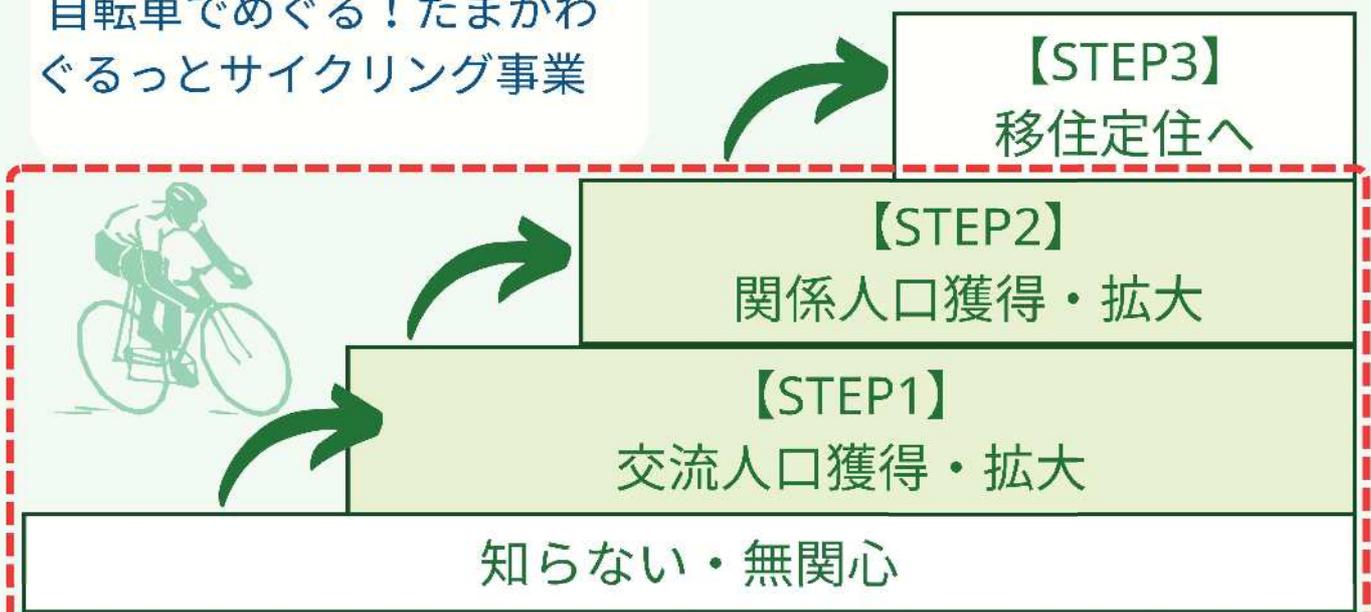
田舎で「職・住」体験
たまかわ"乙な"
ワークツーリズム事業



3-1

3 田舎で「職・住」体験「たまかわ"乙な"ワークツーリズム」事業

自転車でめぐる！たまかわ
ぐるっとサイクリング事業



3-2

3 田舎で「職・住」体験「たまかわ"乙な"ワークツーリズム」事業

田舎で「職・住」体験
たまかわ"乙な"
ワークツーリズム事業



3-3

3 田舎で「職・住」体験「たまかわ"乙な"ワークツーリズム」事業

目的



「自転車でめぐる！たまかわぐるっとサイクリング事業」で獲得した「短期滞在型」の交流・関係人口を移住へつなげる

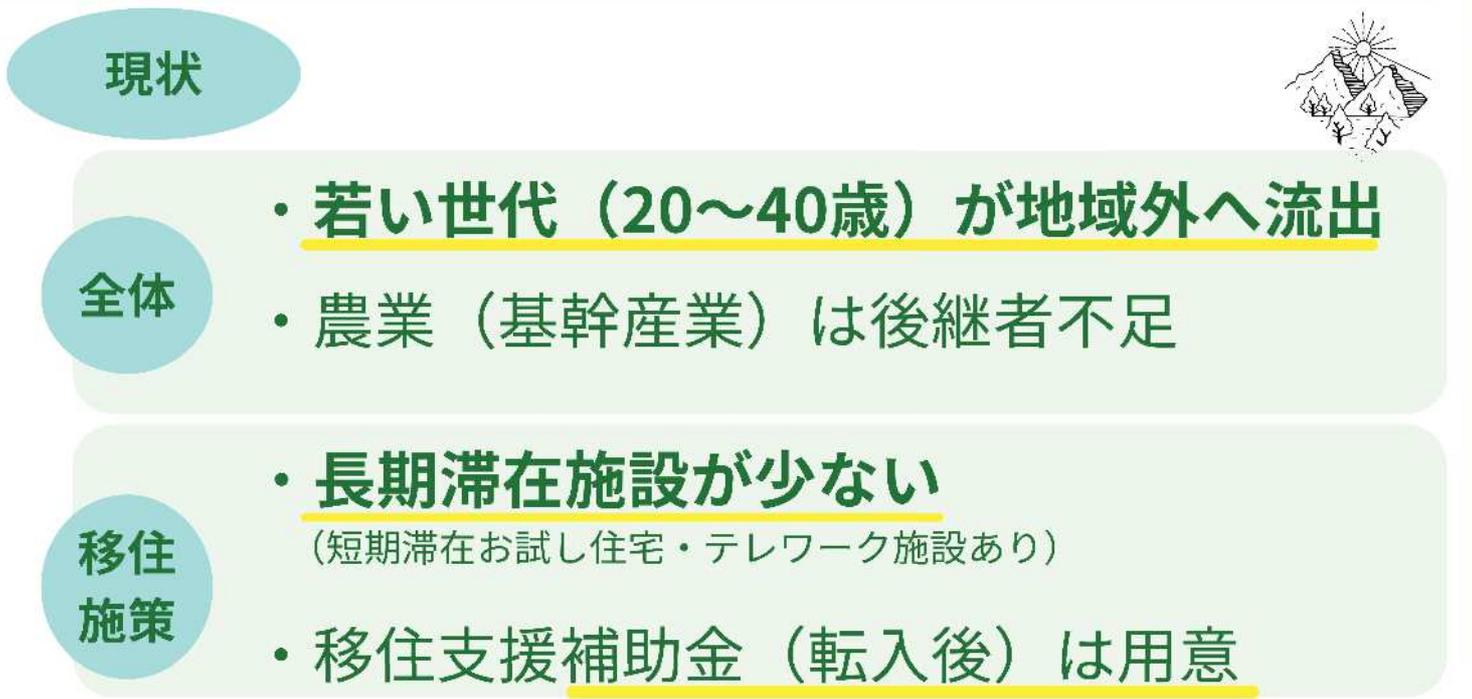
「職・住」体験機会の提供により「長期滞在型」へ移行させ、移住へのキッカケをつくる

3-4

3 田舎で「職・住」体験「たまかわ"乙な"ワークツーリズム」事業



3 田舎で「職・住」体験「たまかわ"乙な"ワークツーリズム」事業



目指すべき姿



・移住先として選ばれる村



・暮らしや働く拠点・移住先として

・住んでみたい、住み続けたい村

・若い世代が安心して働ける場がある

3-7

成果目標

(参考) 長期目標：2060年：人口5,800人

玉川村人口ビジョン



移住体験
参加者数

30 名

R4トライアルステイ実証事業
参加者10組12名

就業・就農体験先

15 先

R5:就業体験2先

村民・移住者交流会開催

10 回

12/1~5 (オンライン相談1回)

3-8

課題



- ・ 移住の決定要素である「しごと」の提案が弱い
- ・ 移住をイメージする体験・交流機会が足りない
- ・ 住民みんなで取り組む課題という認識



⇒ 一過性の観光を超えた継続的な交流機会の提案

3-9

移住するなら 何が大切？



3-10

3 田舎で「職・住」体験「たまかわ"乙な"ワークツーリズム」事業

しごと



正社員求人 57件 派遣・契約・バイト 250件

Indeed求人情報 R5.12.4現在

くらし



賃貸2件 中古・建売2件
 宿泊施設3件 宅地12件

空き家バンク・賃貸情報 R5.12.4現在

・玉川村で若い世代が安心して働ける場所はある！

⇒しごと体験により移住のキッカケを作りたい

3-11

3 田舎で「職・住」体験「たまかわ"乙な"ワークツーリズム」事業

玉川村の
移住施策

長期滞在型



短期滞在型

C.移住促進支援

- ・しごと体験（本件）
- ・長期滞在施設（農泊等）
- ・コワーキングスペース

D.移住支援

【移住者向け各種補助金】

- ・移住者居住支援事業
- ・たまかわ移住支援金など

・自転車関連事業

・SNS事業

・観光交流イベント

A.認知興味

・お試し住宅「たまかわ観光短期滞在トライアルステイ」

B.関係強化



3-12

村現行事業との比較

次のステージへ



これまでの移住関連事業

- ・ 認知・興味・関係強化施策
- ・ お試し住宅（観光型短期滞在）
- ・ スポーツツーリズム（自転車）



これからの移住促進事業

移住決定要素の具体的な仕事の提案

村内の仕事紹介

村全体でお・も・て・な・し

たまかわいい移住の日の制定

地域ディレクター・コンシェルジュ

3-13

課題解決のために



田舎で「職・住」体験

「たまかわ"乙な"ワークツーリズム事業」を実施

※ 「"乙な"」 = 玉川村ならではのちょっといいと思わせる

「乙な駅」「乙な麦酒」など玉川村だと分かるネーミング



3-14

3 田舎で「職・住」体験「たまかわ"乙な"ワークツーリズム」事業

概要

- ・ 移住先で「職・住」体験する
- ・ 移住先での「しごと」を紹介
- ・ 移住者・地域住民との交流
+ オンライン事後セミナー



内容



〈募集・期間〉

月1回
体験期間
2泊3日～



〈参加費用 ・人数〉

滞在中にたまかわの魅力
をSNSで発信すると
宿泊費無料
各回最大5名



〈運 営〉

広報等を含め
民間事業者に委託

3-15

3 田舎で「職・住」体験「たまかわ"乙な"ワークツーリズム」事業

対象

- ・ 20代から40代【メイン】
- ・ テレワーク移住検討者・学生【サブ】
(自転車事業で獲得した自転車が好きな短期滞在者も対象)



3-16

3 田舎で「職・住」体験「たまかわ"乙な"ワークツーリズム」事業

プラン

玉川村ならではの"乙な"暮らし・魅力をPR



〈しごと体験〉

※選べるプラン

- ・企業就労プラン ・就農体験プラン
- ・ワーケーションプラン
- ・ものづくり体験プラン

〈マッチング・交流会〉

- ・村民移住者交流会
- ・移住相談会
(お試し住宅・旅館等に宿泊)

3-17

3 田舎で「職・住」体験「たまかわ"乙な"ワークツーリズム」事業

プラン (例)

既定ツアー・オーダーメイド



1日目

- ・オリエンテーション
- ・村内視察 (投稿撮影)
自転車体験など
空き家・子育て施設見学
移住者交流会

事前相談・面談



2日目

- ・しごと体験 (1日目)
- ・村民交流会
- ・移住相談
- ・乙な麦酒



3日目

- ・しごと体験 (2日目)
- ・道の駅食品加工体験
- ・SNS投稿

事後オンライン
セミナー



3-18

村のメリット



- ・「自転車でめぐる！ぐるっとたまかわサイクリング事業」で獲得した交流・関係人口を移住へつなげる
- ・移住前に「暮らし」「しごと」の不安が解消され、具体的な移住候補先となる
- ・後継者・人手不足の解消



3-19

参加者のメリット



- ・体験により就業のあり方を具体的に想像できる
- ・地域住民や先輩移住者との関係構築
- ・他の移住検討者と対話ができる
- ・第二のふるさと「玉川村」との出会いになる

3-20

3 田舎で「職・住」体験「たまかわ"乙な"ワークツーリズム」事業



効果 検証

年度末に実績を整理
(体験参加者数、就業・就農体験件数等)

主なスケ ジュール

令和6年度

- ・体験企業募集 : 4月
- ・計画実施 : 5月～3月

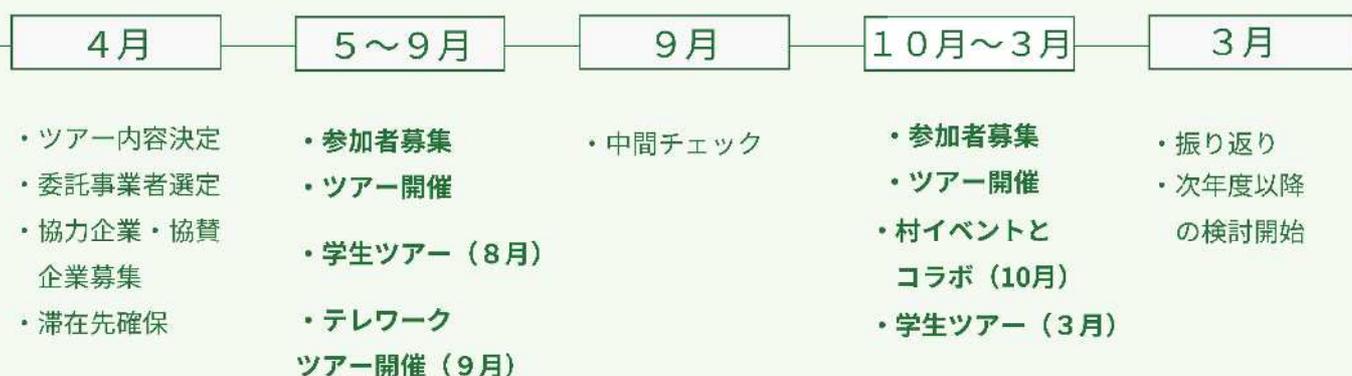
令和7年度～

- ・お試し住宅の拡充、空き家活用宿泊施設整備

3-21

3 田舎で「職・住」体験「たまかわ"乙な"ワークツーリズム」事業

事業スケジュール (令和6年度)



3-22

予算概要



○事業費 4,200千円

【内訳】

- ・業務委託料（運営、広報等）：2,000千円
- ・商品代（地域商品券）：200千円
- ・補助金（交通費、宿泊・体験等）：1,500千円
- ・職業紹介ページ作成料：500千円

○財源

- ・県補助金：ふくしま移住希望者支援交通費補助金
- ・その他補助金：移住定住交流推進支援事業助成事業
- ・特別交付税、一般財源

3-23

令和7年度以降の事業展開

⇒継続して、村への移住につなげる事業へ

- ① 募集時期、参加者の居住地等分析・精査
- ② 村の夏祭り等の行事や事業者との更なるタイアップ
- ③ 村民も参加させるため「いい移住の日」の制定
- ④ 空き家を利活用した民泊・ゲストハウスの整備も検討

3-24

提案内容(目次)

- 1 SNS(動画)を活用した
玉川村の魅力発信事業
- 2 自転車でめぐる！
たまかわぐるっとサイクリング事業
- 3 田舎で「職・住」体験
たまかわ"乙な"ワークツーリズム事業
- 4 まとめ

4-0

4 まとめ～事業の全体像～

田舎で「職・住」体験

たまかわ"乙な"ワークツーリズム事業

自転車でめぐる！

たまかわぐるっとサイクリング事業

SNS(動画)を活用した
玉川村の魅力発信事業

【STEP3】

移住
定住へ

【STEP2】

関係人口獲得
・拡大

【STEP1】

交流人口獲得・拡大

知らない・無関心

4-1

4 まとめ～自転車が好き、玉川村が好き～

全ての村民が自転車を好きになる

➡ 自転車を通じ玉川村の魅力を知る

➡ 村内外に魅力が広がり
玉川村を好きな人が増える

➡ **選ばれる村へ**

4-2



提案の他、
本研究会の中で出された
アイデア

5-0



JR泉郷駅多目的交流拠点&遊水池を活用した交流スペース等の整備



5-1

JR泉郷駅多目的交流拠点&遊水池を活用した交流スペース等の整備

◆ 現 状

- ① 村内のJR水郡線泉郷駅は毎年利用者が減少しており、令和元年から令和3年までの利用者の減少率が10%を超え、減少に歯止めが掛からない状況となっている。
- ② 駅前にある工場跡地の荒廃と利用者の減少に伴い、年々、泉郷駅前の活力が低下している。
- ③ 遊水池整備計画では対象区域の周囲が堤防で囲まれ、個人の土地利用が制限されるため、田園風景や美しい水辺景観が損なわれる。



◆ 課 題

- ① 泉郷駅は通勤通学等の固定利用者はあるが、駅周辺に飲食店や商業施設、交流施設等がないため、観光としての集客力が弱い。
- ② 遊水池内の活用にあたり、国事業と並行して村事業を進める必要があるため、事業決定までの時間が限られている。
- ③ 駅前は駐車スペースが少なく、利用者数が増加した場合でも対応できない。

5-2

JR泉郷駅多目的交流拠点 & 遊水地を活用した交流スペース等の整備

◆ 事業内容

提言①

観光客などの来村者と地域住民、移住検討者が気軽に集まり、村のイベントや地元の活動などの情報発信や意見交換ができる交流拠点を泉郷駅前に整備し、移住に対する村ぐるみの支援体制を構築する。

提言②

遊水地の堤防上部にサイクリングコースを整備し、周遊できる環境を整える。併せて堤内に公園を整備する。堤内への浸水などの災害時を想定して、移動可能なトレーラーハウスやコンテナハウスを設置する。

提言③

駅前施設、遊水地施設の利用者増加に向けて、駅前に村営の駐車場・駐輪場を整備する。

効果

駅前の活性化

乙字ヶ滝周辺観光整備計画の始発点として機能することで遊水地・サイクリング・水辺施設の利用を目的とした観光客と駅利用者の増加。

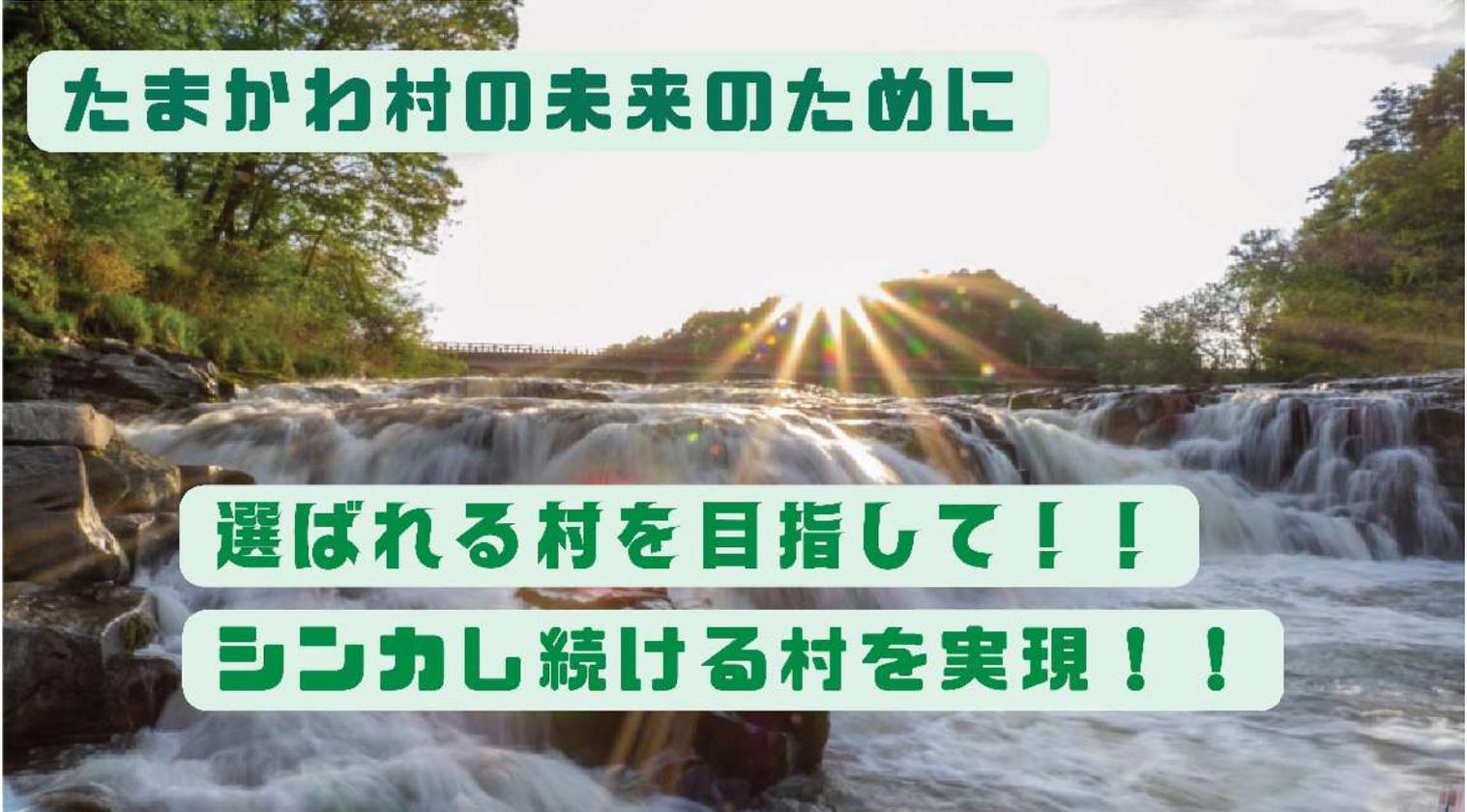
賑わい創出

多世代に渡る人々の交流の拠点を整備することで、観光客と地元住民、移住者の交流による賑わいの創出

雇用の創出

清掃や芝刈り、枝木の選定など施設内の維持管理をシルバー人材センターや地元事業者に委託することにより雇用の創出

5-3



たまかわ村の未来のために

選ばれる村を目指して！！

シンカし続ける村を実現！！

THANK YOU!

ありがとうございました

Next Tamakawa Village

5-(4) フィールド自治体より事業提案を受けて

玉川村では、将来の人口ビジョンを策定し、まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき各種事業を展開しており、移住・定住の施策事業を展開するにあたり「知らない場所や一度も訪れたことがない場所に移住して来るという方はいない」という考えのもと、ヒトとモノが交流する賑わいづくりについて、体験型観光を核とした「交流人口と関係人口」の拡大に尽力しておりました。

観光交流拠点施設「森の駅 yodge」を中心にしたアウトドア体験、MTB コースやスキルパーク、BMX やスケートボードができる屋内パークのアーバンスポーツたまかわ等、来村者を徐々に増やす仕掛けを実施しながら、今後も新たなコンテンツも増やしていく予定であります。

更には、「すがまプラザ」を設置し、「職・住・遊・学」をコンセプトに、移住する方、住み続ける方のための職や生活に密着した施策を「すがまプラザ交流センター」を中心に推進しているところです。

一方で、有効な情報の発信方法や、村内の資源を活用した更なる地域の活性化、地域コミュニティの振興を図りながらの交流人口の拡大、公共施設の有効活用等、課題も多く抱えておりました。

この度、フィールド自治体として選定いただき、ふくしま自治研修センターのフィールドワークを通して、玉川村にある資源や目的達成のために実施している施策・事業などについて、フィールド自治体型政策研究会へご参加いただいた研究生の皆様より、様々な視点での研究成果である「事業提案」をお受けできましたこと大変ありがたく感じると同時に、早速、ご提案事業を具体化し実施していきたいと考えており、「SNS（動画）を活用した魅力発信事業」「サイクリング事業」「ワークツーリズム事業」等の交流人口拡大、移住対策関係事業については、次年度より、しっかりと取り組んでいきたいと考えております。

実行可能な具体的事業をご提案いただいたこと、お忙しいなか研究のために何度も当村を訪れていただいた講師先生を始め、研究生の皆様、ふくしま自治研修センターの皆様にご感謝申し上げます。

令和6年2月 玉川村長 須釜泰一